

令和7年度 第3回 山ノ内町総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日・出席者等

開催日時 令和7年10月7日（火） 10時00分から11時00分まで
場 所 文化センター 学習室
出席者 下記のとおり
傍聴者 3人

協議状況（会議事項）

1 開会

2 あいさつ 高木委員長

3 会議事項

（1）第6次山ノ内町総合計画前期基本計画の検証結果について

令和7年7月8日（火）、9月5日（金）に開催した第1回合同専門部会の各議事録内容を説明。

【意見・質問】

- ・委員：出席・欠席の状況報告をお願いしたい。
- ・事務局：総勢22名の委員のうち本日欠席者は山ノ内町民生児童委員協議会の佐藤様、湯田中洪温泉郷地区旅館業代表関様、山ノ内町金融団の荒井様、山ノ内町スポーツ協会高山様、山ノ内町消防団の竹田様。山口様と片桐様と野竹様については出席の連絡を受けており、遅れて参加される見通しである。
- ・委員：教育・文化・スポーツ部会のみ日付が違っている理由を説明しておいたほうがよい。産業部会だけ発言者の表記が「審議員」ではなく「審議会」になっている。
- ・事務局：日付がずれた理由は、当初7月8日火曜日に全5部会を開催する予定でいたが、教育・文化・スポーツ部会は委員の欠席が多かったことから、9月5日に開催した。

（2）第2期山ノ内町まち・ひと・しごと創生総合戦略の第5回改訂について

今回の改訂は令和7年度の間に変更する必要があるものに限り改定するもので、来年度以降実施していくものは第3期の計画に盛り込む予定であるためKPIの改定は行わず最小限の修正としている。資料1別紙が新旧対照表で、事業内容や名称が変わったものの変更や、本年度新たに事業として行っているものの追加、事業が終了したことによる削除が主な修正になる。

【意見・質問】

- ・委員長：総合計画と総合戦略の違いや使い分けを簡単に説明してほしい。
- ・事務局：総合計画は町の大きな方向性と位置づけている。総合戦略は国が定めるまち・ひと・しごと創生法の中で、地方も努力義務として作るよう示されている。総合計画で定めた方向性や政策内容を実現するために使うものとして位置づけている。総合戦略の2ページの図を参照いただくと、総合戦略と整合し、各種計画、国の総合戦略、長野県のしあわせ信州創造プラン、人口ビジョン、北信地位定住自立圏共生ビジョンと連携しながらつくっている。
- ・事務局：総合計画を基に具体化した部分が総合戦略になり、策定するメリットとしては様々な交付金や企業版ふるさと納税について、総合戦略に載っている事業に対して交付され、また寄附いただける。今後、後期基本計画を策定した後それをどうやって実現していく

か、そういったものを戦略の方で個別具体的な事業として載せていく形になる。

- ・委員長：国や県の補助金をいただくためにはこの戦略に載せないともらえない、その基本となるのが総合計画ということで、総合計画に載っていることをできるだけ戦略を落とし込めれば一番よいと思う。
- ・委員：総合戦略2ページの図で、前期基本計画イノベーションプラン戦略2.0は後期基本計画ではなくなるということでよい。
- ・事務局：第2期ではイノベーション戦略プラン2.0として存在しているが、今策定している後期基本計画では記載はしない。
- ・委員：長野県のしあわせ信州創造プランはいわゆる総合戦略と総合計画を合体させた形で動いている。山ノ内町は第6次総合計画を令和3年からスタートさせているためこのタイミングでは変えられないが、例えば第7次の令和13年から始まる計画のときには法律がなくなる限りは総合戦略が生きてくるので一本化していく考え方もあると思う。報告書や説明を聞いても、議員はともかく町民に分かりにくい計画の位置づけになっているので、行政計画なのか、町民を巻き込んだ協働の計画なのかを押さえたうえで一本化する考えについて提案を含めお願いしたい。
- ・事務局：実際に議会で基本計画後期基本計画を策定しなくてもよいのではないかという議論があったことはお知らせしておく。法定計画である総合戦略のみでいいのではないかという話が今あったので、今後一本化ということも視野に入れて検討していきたい。
- ・委員長：計画が絵に描いた餅で終わらずに実行できるように、将来的には総合戦略と一本化も前向きに検討いただくこととしたい。

(3) 第3期山ノ内町人口ビジョン(案)について

後期基本計画の施策内容をより「強化し」、「施策展開」するための、第3期山ノ内町まち・ひと・しごと創生総合戦略を作成するにあたり、減少が予想される町の人口の現状を分析し、人口減少対策に効果的な取り組みを企画・立案する上での基礎資料となるのが「人口ビジョン」。

資料内容については、人口の現状分析から始まり、各種詳細に取りまとめているが、その中で、「山ノ内町の将来人口推計」として推計パターンを5つ考え、事務局案として「赤色グラフ」で示している。2070年に人口5,185人を目指す「パターン3」を選定した。

なお、「青色グラフ」が社人研推計（国立社会保障・人口問題研究所）が公表している推計パターンとなり、このまま行けば、2070年には、町の人口が3,689人になると予想される。

5パターンある中、「赤色グラフ」のパターン3を選んだ理由としては、前回目標の、パターン2では、安定的な人口の規模を維持していくための必須条件となる合計特殊出生率が2.07で設定されており、依然として晩婚化や未婚化により未婚率の上昇、子育てにかかる経済的な負担、ライフスタイルや価値観の変化により、改善する見込みがいまだ立っていない状況。

第3期人口ビジョンでは、「人口減少・少子化」を受け入れ、「人口減少への適応」と「人口減少スピードの緩和」を目指し、より現実的で実現可能と考えられる、パターン3の将来人口を目指し、後期基本計画及び総合戦略において、具体的な方針を示し、施策を展開したいと考えで。事務局案として、「パターン3」を選定させていただき、委員の皆さんにご審議いただきたい。

- ・事務局：前はコロナ禍での設定であり、合計特殊出生率が伸びる見込みで2.0としたが、5年経って現状を見るとそこまでは無理だろうということで現実的な数字に落としたものがパターン3になる。また、転入転出の状況を純移動率として反映させており、2025年以降は均衡し増減しないと設定し、減っていかないよう何とかしていこうということでパターン3としてつくっている。社人研より1.4倍、1.5倍の人口が残るように、この差を総合計画や総合戦略で減らないようにしていく方向でこちらの方を採用させていただきたい。
- ・事務局：第3次人口ビジョンは皆さんと一緒にこれからまちづくりをしていくための目標だと考えていただきたい。やはり人口がなければ町も成立していかず、資料に示している青いラインは国がいろんな要素を盛り込んで検討した結果として2070年には3,689人と出

しているもの。町としては若者に帰ってきてもらおうとか、若い人たちが来ることで出生率が上がっていく政策、例えば子育て支援策や稼げる政策を今後は基本計画・総合戦略の中に盛り込んでいくことで人口を増やしていきたい。

前回第2期はコロナ前でインバウンドが増えてきていた時期だったこともあり、社人研の数字を踏まえ今後伸ばしていこうというところで、合計特殊出生率、2.07人で設定した。前回は人口減少スピードを鈍化させること、長野県でも7がけ社会への対応という言葉はまだなく、まだまだ人口を増やしていくという時代だったと思う。それに対して今回は無理やり合計特殊出生率を高く設定するのではなく、現状に合わせたかたちでなるべく社人研の数字にならず女性に無理をさせないというところでも盛り込んで、前期では6,361人だったところを減らして5,185人という設定でどうかと考えている。

【意見・質問】

- ・ 委員：推計のため難しい部分もあるが、社人研の数字はほぼ外さないかたちで推移しており、実際社人研の5年間の推計は町の人口ビジョン第1期より第2期の方が落としている。
今回第3期をつくるにあたって社人研の数字を上げているので、それに対して町の政策を講じることで青いラインから赤いラインに変えていきたいことがわかる資料を入れるとよい。また、合計特殊出生率の2.07は人口置換とって、人口が減らないレベルだという説明をしておいてほしい。パターン1は特殊出生率1.12、パターン3は1.30を使っていることが表記されておらず言葉での説明だとわかりにくい。高い数字のほうが人口は上に行くということがわかるように書いておいたほうがよい。
- ・ 事務局：冊子の方にはこれらが散りばめられているが今日はなるべく簡素にした。細かい数字等もわかりやすく修正し最終的なものに作り上げていきたい。
- ・ 委員：これだけの資料を読み込んでくるのはなかなか大変で、要はこの1枚ものの資料で結論として、5年間あるいは将来的に2070年までこんな感じの動きになり、頑張ると赤いラインになるということが町民の皆さんにわかりやすいかたちで提示できればよい。町民の皆さんに冊子を渡して見てくださいといっても誰も見ないし意味がわからない。
- ・ 委員長：山ノ内町は消滅可能性自治体で、20から40歳の女性とその町に定着してるかの比率をもって消滅自治体になるかどうかというのもあるため、あわせて資料があれば別個にいただければありがたい。
- ・ 事務局：いただいた意見をもとに資料の見やすさわかりやすさを意識していきたい。

(4) その他 特になし

4 その他 第2回合同専門部会の開催方法等について説明

5 閉会

○出席者名簿（敬称略・順不同）

（委員）

町議会 総務産業常任委員長 山本 光俊

町議会 社会文教常任委員長 高田 佳久

町議会 広報常任委員長 志鷹 慎吾

町区長会 会長 瀧澤 敏

町農業委員会 会長代理 福井 敏彦

（一財）山ノ内町まちづくり観光局 事務局長 石井 正生

町商工会 女性部副部長 春原 厚子

JA ながの 地区筆頭理事 徳竹 栄一

北信州森林組合 理事 山口 剛
女将の会「ゆのか」 会長 竹節 みどり
志賀高原観光協会 会長 片桐 由香子
北志賀高原観光協会 会長 徳竹 栄子
町教育委員会 広育委員 野竹 重範
山ノ内町公聴会 竹内 由紀
山ノ内町社会福祉協議会 事務局長 山口 辰也
町長推薦 高木 幸一郎
事務局 未来創造課長 堀米 貴秀
事務局 未来創造課地域創造係長 樋口 淳一
事務局 未来創造課地域創造係 三井 里美
事務局 未来創造課地域創造係 樋口 智章

以上